

第12期 MOT (技術マネジメント) 研究会

開催のご案内

テーマ：イノベーションを起こすための組織経営

[2020年大阪開催]

- ◆ 会 期：2020年7月28日 (火) ~11月 ※全5回
- ◆ 会 場：大阪科学技術センタービル会議室
(大阪市西区鞆本町1-8-4)
- ◆ 講 師：(講義および各回のコーディネーター)
神戸大学大学院経営学研究科教授
原 田 勉 氏
- ◆ 実践事例：デンソー、江崎グリコ
- ◆ 特別視察：島精機製作所 (和歌山市)
- ◆ 対 象：研究・開発部門、技術部門の管理者・リーダーの方々
企業内でMOTの推進・教育に携わるの方々 など
(定員 30 名)

開催にあたって

グローバル競争の激化や国内市場の縮小化など、企業を取り巻く事業環境は変化しております。そのため、各企業においては自社製品・技術の優位性がゆらいでおり、新たな価値やイノベーションの創出が求められております。

そして、このイノベーションをいかに生み出すかを考えるのがMOTの主要テーマであり、本研究会ではその推進のための技術マネジメントのしくみ、新たな組織能力の高め方、研究開発活動のプロセスなどについて考えます。指導講師のコーディネートのもと、他社事例の発表とディスカッションをもとに、実践から得られるヒントを学んでいくカリキュラムとなっております。

本年のテーマは「イノベーションを起こすための組織経営」です。自社で蓄積された技術も活用しながら、外部との柔軟な連携・提携によりイノベーションを推進し、既存の事業領域にとらわれない新しい価値を社会に提供できる組織であることが、時代を超えて勝ち残る企業の条件と言えるのではないのでしょうか。

この機会に、関係各位の積極的なご派遣（ご参加）をおすすめ申し上げます。

主 催



一般社団法人 日本経営協会

指導講師

神戸大学大学院経営学研究科 教授
Ph.D. (スタンフォード大学) 博士

原田 勉 氏



〔略歴〕 1989年一橋大学商学部卒業
1991年一橋大学大学院商学研究科修士課程修了
1997年スタンフォード大学よりPh.D(経済学博士)取得
1997年神戸大学経営学部助教授
1998年科学技術政策研究所客員研究官(～ 99年)
2003年INSEAD 客員研究員(～ 04年)
2004年ハーバード大学フルブライト研究員(～ 05年)
2005年神戸大学大学院経営学研究科教授

〔専攻〕 経営戦略・組織・技術マネジメント、産業組織・経済成長論

〔著書〕 『イノベーションを巻き起こす「ダイナミック組織」戦略』日本実業出版社2016年
『イノベーション戦略の論理』中央公論新社 2014年
『実践力を鍛える 戦略ノート[戦略立案編]』東洋経済新報社2010年
『汎用・専用技術の経済分析』白桃書房 2007年
『ケース演習でわかる 技術マネジメント』日本経済新聞出版社 2007年
『実践力を鍛える 戦略ノート[企業価値評価編]』東洋経済新報社2007年
『実践力を鍛える 戦略ノート[マーケティング編]』東洋経済新報社2006年
『MBA 戦略立案トレーニング』東洋経済新報社2003年
『ケースで読む 競争逆転の経営戦略』東洋経済新報社 2000年
『知識転換の経営学』東洋経済新報社 1999年 他

<指導講師からのメッセージ>

MOT(技術マネジメント・技術経営)について講演や研修を依頼される場合、よくあるリクエストは、他社での具体的な事例を数多く盛り込んで欲しいというものです。教科書のなかの話ではなく、現実にもどのような技術マネジメント、技術経営が実践されているのかは、多くの企業の方々にとって強い関心事であると同時に、その情報はきわめて限定されているのが実状です。というのも、このような MOT に関する事項はトップシークレットとしてあつかわれることが多いからです。

この MOT 研究会では、このような要望をもつ企業の方々に対して、日本を代表する優良企業で技術マネジメントを実践されている現場の方々を講師としてお迎えし、自社の事例について詳しくお話していただきます。そして、そこで問題提起された事項について自由に討議していきます。MOT に関心をもっているけれども、まずは先端的な企業ではどのようにそれが実践されているのか知りたい、自社で MOT を導入しているけれども、どのようにすれば成果が上がるのかヒントを得たい、といった要望をお持ちの方々には是非ともご参加いただき、共に研究していきたいと思っております。

研究会のすすめ方・特長

- 1 多彩なゲストスピーカーの講話や視察を通し、技術マネジメントのあり方と実践について多面的に学びます。また、各回とも指導講師のコーディネートのもと、質疑応答や討議・意見交流を深めます。
- 2 懇親交流会(2回)を通し、参加者同士の交流と親睦をはかります。
- 3 全会合終了後は、すべてのドキュメントを1冊にまとめ、報告書として進呈いたします。



日時・会場	テーマと内容	当日のスケジュール(予定)
<p>第 1 回</p> <p>7月28日(火) 13:30～18:30</p> <p>会場 大阪科学技術 センタービル</p>	<p>基調講義 「OODAループによるイノベーションの遂行」</p> <p>講 師： 神戸大学大学院経営学研究科 教授 原田 勉 氏</p> <p>PDCA サイクルに代わり得る考え方として、OODA ループが注目を浴びています。この OODA ループはもともと米国軍隊で採用され、湾岸戦争等で顕著な効果を上げたものです。近年では米国の優良企業でも採用するところが増えてきています。この講義では、この OODA ループとはどのようなものなのかを解説したうえで、イノベーション・マネジメントにどのように適用できるのかについて考察していきたいと思えます。</p> <p><懇親交流会> 同ビル内で実施予定</p>	<p>13:30 開会 13:35 講話 15:05 小休憩 15:20 質疑応答 15:50 討議とまとめ ※指導講師、参加者の間で 討議と意見交流</p> <p>17:00～18:30</p>
<p>第 2 回</p> <p>8月18日(火) 13:30～17:00</p> <p>会場 大阪科学技術 センタービル</p>	<p>「デジタル・トランスフォーメーション(DX)推進のための人材、組織、プロジェクト体制」 ～伝統的日本企業における組織文化と人材の育成～</p> <p>ゲスト： 株式会社デンソー モビエレ事業グループ デジタルイノベーション室長 成迫 剛志 氏</p> <p>日本のDX推進に関しては、様々な書籍やガイドラインなどが発行されています。しかしながら、それらは組織論や人材育成論、プロジェクト推進手法など個々の領域に対するガイドとなっているものの、実際の企業活動におけるプロジェクトに当てはめての検証までは至っていないのが現状です。今回は、日本の伝統的大企業におけるDXプロジェクト推進を実践した経験から、DX推進のための人材、組織、プロジェクト体制に関する課題と対処法についてお話させていただきます。</p>	<p>13:30 開会 13:35 成迫氏ご講話 15:05 小休憩 15:20 質疑応答 15:50 討議とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者 の間で討議と意見交流 17:00 終了</p>
<p>第 3 回</p> <p>9月29日(火) 13:30～17:00</p> <p>会場 大阪科学技術 センタービル</p>	<p>「Best scienceからのイノベーションから異質の知の組み合わせによるイノベーションへ」 ～私たちが取り組んできた事例と今目指している技術戦略～</p> <p>ゲスト： 江崎グリコ株式会社 取締役 常務執行役員 健康科学研究所長 (兼任) グリコ栄養食品 代表取締役社長 栗木 隆 氏</p> <p>私たちは1986年以来、選択と集中およびコアコンピタンスの明確化で最高水準の科学と技術を追求することにより新しい事業を立ち上げてきました。それは「ゼロからイチ」のインパクトを生みましたが、全社の事業規模を大きく伸ばす大きなイノベーションには至っていません。2007年頃以降の周回遅れともいえる日本の産業競争力の低下を目の当たりにし、現在は「モノづくり」「自社の強み」だけに頼らない異質の知の組み合わせによるイノベーション創出に取り組んでいます。私たちが実際に取り組んできた事例をもとに、変化の激しい現在にあるべき科学技術のマネジメントを考えていきます。</p>	<p>13:30 開会 13:35 栗木氏ご講話 15:05 小休憩 15:20 質疑応答 15:50 討議とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者 の間で討議と意見交流 17:00 終了</p>
<p>第 4 回</p> <p>10月12日(月) 13:30～16:30</p> <p>会場 特別視察 (株)島精機製作所 本社工場 (和歌山市)</p>	<p>「島精機製作所のイノベーション 創出への取り組み」</p> <p>ゲスト： 株式会社島精機製作所 執行役員 生産部長 大谷 明広 氏</p> <p>世界初の「ホールガメント横編機」によって編成された無縫製ニットウェアは、一着丸ごと立体的に編み上げるため、カットロスがなく、資源を無駄にしません。このサステナブルなモノづくりの実現までには、様々なつながりがありました。「Ever Onward-限りなき前進」の理念のもと、未知なる領域に常に挑戦し続ける社員一人ひとりの想いと、イノベーションを生み出す取り組み、そして、それを展開してきた技術力・開発力・創造力についてご紹介いただきます。</p>	<p>13:30 開会 13:40 本社工場見学 (小休憩含む) 14:40 大谷氏ご講話 16:00 質疑応答とまとめ 16:30 終了</p>
<p>第 5 回</p> <p>11月*日(*) 13:30～18:30</p> <p>会場 大阪科学技術 センタービル</p>	<p>「現在調整中」</p> <p>ゲスト： 現在調整中</p> <p>現在調整中</p> <p><懇親交流会> 同ビル内で実施予定</p>	<p>13:30 開会 13:35 ご講話 15:05 小休憩 15:20 質疑応答 15:50 討議とまとめ ※ゲスト、指導講師、参加者 の間で討議と意見交流</p> <p>17:00～18:30</p>

※ 上記の時間帯については、当日の進行状況により、多少変更させていただきます。また、各回の討議の進行については、当日の状況にあわせて指導講師がコーディネートします。

※ 諸事情により、日程・講師・内容等に変更が生じる場合がございます。

◆企画委員 (50音順) 本研究会の発足にあたり、主旨へのご賛同や企画へのご協力をいただいた方々

請川 信氏 パナソニック株式会社 人材開発カンパニー
技術研修課 課長

佐々木加津也氏 日立造船株式会社
事業企画・技術開発本部 業務部長

金子靖仙氏 ミズノ株式会社
グローバル研究開発部 技監

鳥越泰光氏 シスメックス株式会社 中央研究所
研究企画グループ 課長

河原克己氏 ダイキン工業株式会社
テクノロジー・イノベーションセンター
副センター長

濱田哲郎氏 株式会社ノリツ 研究開発本部 海外商品統括部
グローバル商品開発2部 部長

森岡裕子氏 大日本住友製薬株式会社 技術研究統括部長

◆実施要領・申込要領

- ◇会 期：2020年7月28日(火)～11月(全5回)
- ◇会 場：大阪科学技術センタービル会議室(大阪市西区靱本町1-8-4)
- ◇主 催：一般社団法人 日本経営協会
- ◇受講登録：1社につき2名様までのお申込が可能です。※登録者以外の方の代理出席も可能です。
- ◇定 員：30名
- ◇参加料：(1社あたり)

	1名登録の場合			2名登録の場合		
	参加料	消費税	合計	参加料	消費税	合計
本会会員	90,000円	9,000円	99,000円	150,000円	15,000円	165,000円
一般	130,000円	13,000円	143,000円	190,000円	19,000円	209,000円

- ◇申込方法：下記参加申込書に必要事項をご記入のうえ、下記事務局までFAXまたは郵送でお申込みください。折り返し参加券を送付いたします。
- ◇申込締切日：2020年7月15日(水)
- ◇お支払方法：お申込到着後、本会から請求書と振り込み用紙を送付いたしますので、開講日までに請求書に記載の指定口座にお振り込みください。振込み手数料は貴社にてご負担ください。
- ◇その他：お振込みいただいた参加料は原則として返金いたしかねますので、ご都合が悪くなられた場合は代わりの方のご登録をお願いいたします。
新型コロナウイルス感染拡大防止の状況により、WEB会議サービス等を使用して例会を開催する場合や、中止・延期・日程変更となる場合があります。何卒ご了承下さい。

◆お申込・お問合せ先

一般社団法人 日本経営協会 関西本部 「MOT研究会」事務局 (担当：田中)

〒550-0004 大阪市西区靱本町1-8-4 大阪科学技術センタービル5階

TEL：06-6443-6962 FAX：06-6441-4319 E-Mail：ksosaka@noma.or.jp

031A-2007(4)

2020年 月 日

NOMA 「第12期 MOT研究会」参加申込書

(一社)日本経営協会会員 一般

- (1) 会社(団体)名： _____
- (2) 住 所：〒 _____ TEL () - _____
- (3) 連絡担当者氏名： _____ 所属役職名 _____ FAX () - _____
(請求書送付)

◆登録者

氏 名 (フリガナ)	所属・役職名	勤務先住所	連絡先 (TEL・E-mail)
フリガナ		〒	
フリガナ		〒	

参加申込書にご記入いただいた情報は、以下の目的に使用させていただきます。
①参加券や請求書の発送などの事務処理 ②セミナー・イベントなど本会事業のご案内
なお、②がご不要の場合は□にチェックしてください。—— □ 不要

本コースは、運営において参加者各位の氏名、勤務先名、所属、役職名を記載した参加者名簿を本講座の参加者全員に配布することが必要ですので、このことを同意のうえお申し込みください。